

子どもの心的発達に関する母親の期待

詫 摩 武 俊

(東京都立大学人文学部心理学研究室)

昭和56年度からの継続研究である。母親は子どもに対して、このような姿に育って欲しいという希望を抱く。この希望は明確に意識されることも多いが十分に自覚されていないこともある。この希望のことを発達期待といい、日常のしつけはこれに沿ってなされる。発達期待をもち得るのは、人間の子どもの可塑性、つまり生後の環境によってつくられる可能性が大であることを前提としている。また育児に関心があるからこそ期待するのだともいえる。

発達期待の内容には病気をしたり怪我をしないで健康に育って欲しいというような普遍的な面もあるが、心の発達については母親相互間にかかなりの差異があるものである。積極的で、仲間と争ってでも優位に立ちたがる子どもになることを期待する親もあれば、温和で誰からも好意をもたれる子どもになって欲しいと望んでいる親もある。

さらにその子どもが男の子であるか女の子であるか、複数の子どもの場合、出生順位が上であるか下であるかによって発達期待の内容は相違するであろうと考えられる。このことは、たとえば「男の子のくせにそんなことをしてはいけない」とか「あなたは妹なのだから妹らしくしなさい」という日常のしつけ場面においてしばしば観察される場所である。きょうだいとその出生順位によって扱われ方が違うということは、わが国のしつけの特徴としてしばしば指摘されているところである。男の子に対するしつけと女の子に対するしつけは戦前においては大きな違いがあった。この点については現在はかなり接近していると考えられるが、実情はどうであろうか。また上の子と下の子はどの程度違う期待がもたれているのか。これらの点を明らかにするのが本論の目的である。

1. 発達期待の研究(1)

目的 男の子に対する期待と女の子に対する期待を比較すること。

方法 質問紙法による。

教示。「あなたに小学校2年生くらいの子どものがいるとします。あなたはその子がどんな人になってほしいと思いますか。つぎの9項目の中から4つ選び、男の子の場合と女の子の場合において○印をつけて下さい。男の子の場合と女の子の場合と同じ項目を選んでかまいません」

提示した9項目は表1の通りである。被験者は父親55名、母親104名、計159名である。年齢はほとんどが30歳代である。地域は東京都と北海道である。調査は1982年秋から1983年春にかけて行った。

結果 表1に示した。各自が9項目の中から4項目を選んでいるので、たての数値の合計は約400となる。男の子について「慎重によく考える子ども」であって欲しいと望むものが父親の中に21.8%、母親の中に22.1%もいたことを示している。父親と母親とは、期待の持ち方については大きな違いは認められない。違っている点としては父親は母親よりも「知的関心が強く」、「積極的でたくましい」子どもになることを子どもの性別にかかわらず望んでいる。母親は父親よりも子どもが「しっかりと自己主張をし」、「気持がおだやかである」ことを望んでいる。

しかし男の子と女の子とは親からかなり違った期待をされている。すなわち男の子は父親からも母親からも女の子に比べて「積極的でたくましく」「責任感が強く」「しっかりと自己主張し」「粘り強く」あることを期待されている。母親は父親よりも男の子が粘り強くあることを強く望んでいる。

女の子が男の子よりも両親から期待されている程度の大きな項目は「気持がおだやか」であること、「思いやりが深い」こと、いわれたことを「素直に守る」こと、「慎重によく考える」ことである。以上の中で気持がおだやかであることと素直であることは男の子に比べて、とくに期待されることが大きい項目である。

このように男の子に対する発達期待の内容と女の子に対するそれとの間に顕著な差が認められた。現実の男の子と女の子を比較すると、その行動特徴や態度は近年、相互によく似てきたといわれるが、親たちの意識には幅の広い差があるのである。なお159名の親の中で男の子に対する期待と女の子に対する期待が全く同じであったもの、すなわち9項目の中から選んだ4項目が同じであったものが50名(31.4%)であった。そして3項目同じで1項目違うものが47名(29.6%)、2項目同じものが41名(25.8%)、共通なのは1項目だけで3項目が男女で違うものが21名(13.2%)あった。約3分の2は男の子と女の子に違ったことを期待しているのである。

全体を通して、もっとも多く選択されたのは、「思いやりが深い」ことで、つぎが「責任感が強い」ということであった。

II. 発達期待の研究(2)

目的 男女それぞれ2名ずつ4名の子どもがいた場合、その4名(兄・姉・弟・妹とする)に対する発達期待の内容にどのような差が認められるか、を検討することが目的である。

方法 質問紙法による。前記のような4名の子どもがいた場合、それぞれがどのように育つことを望むかを考えて、提示した30項目の性格特徴の中から、1名について5項目選択することを求めたものである。ある項目を、たとえば上の男の子について選び、その同じ項目を下の男の子について選択しても差支えないこととした。

被験者は女子の大学生253名、幼稚園児の母親115名、計368名である。大学生はすべて未婚で、ほとんどが首都圏に住んでいる。母親群の中には東京都のほか、愛知県、沖縄県に住んでいるものも含まれる。学生群と母親群には回答に差があるだろうと予想したが、検討したところ差は認められなかったので一括して扱うことにした。

結果 表2、表3は4名の子どもに期待している内容を選択数の多かった順に並べたものである。上の男の子が「責任感が強い」子どもになって欲しいと望んでいるものが368名の女性のうち54.9%いたことを示している。

表2は選択順に12位まで示したが、弟になく

て兄にある項目には「しっかりと頼もしい」、「積極的、指導的」、「寛容」、「慎重」などがあり、兄になくて弟にあるものとしては「活発で元気」、「ユーモア」、「人気者」、「さっぱり」、「我慢強い」などがある。30項目の中で兄に期待される特徴として選択されることの少なかったのは、「静かでおとなしい」、「身のまわりを整理する」、「上品な言葉を使う」などの項目であった。弟に期待されることの少ない項目には上記のほかに「家の手伝いをする」、「お金の使い方が合理的」などがあつた。同じ男の子であっても、それが上の子であるか、下の子であるかによって母親及び若い未婚女性の期待内容が違つたのである。

表3は姉と妹の比較である。男子の場合は50%を越える項目は1つだけであるが、女子の場合は5つある。このようになって欲しいという固定した期待内容があるようである。姉と妹の上位3項目は同じである。兄と弟の場合より類似している。

上位12項目の中で妹になくて姉にあるものは「寛容」、「身辺整理」、「素直さ」であり、姉になくて妹にあるのは「人気者」、「年長者から愛される」、「活発で元気」、の項目である。

姉に期待されることの少ない項目は「負けず嫌い」、「楽天的」、「年長者から愛される」、「勉強が好き」、「積極的・指導的」などであった。妹に期待されることの少ない項目は「勉強が好き」、「積極的・指導的」、「お金の使い方が合理的」、「静かでおとなしい」などであった。「勉強の好きな」子どもであることを女子の場合にはあまり期待されていないのである。

表4は兄と弟、姉と妹、すなわち同性のきょうだいに共通に期待している項目である。男子のきょうだいに共通のものと女子のきょうだいに共通のものは「明るい」と「気持がやさしい」ことだけである。兄にも弟にも明るくあることを期待しているものはこの調査の被験者の中では25.7%であるが、姉と妹に「気持がやさしい」ことを期待しているものは58.1%に達する。

表5は出生順位の上のもの2名、下のもの2名にそれぞれ共通に期待している項目である。上のものには「誠実」であること、下のものには「友人間で人気のある」ことが期待されているが、共

通性の高い上位4項目は上のもの間にも下のもの間にもあげられている。

表6は異性のきょうだい間で共通に期待される項目である。兄と妹に共通するものと姉と弟に共通するものとは類似している。つまりこれらの項目はどの子どもにも期待されていることなのである。

なお被験者たちがあげた期待項目の中で共通する項目の多かった組合せを、多い順に示すと次のようになる。

- | | | |
|--------|-------|--------|
| 1. 姉と妹 | 1,230 | (共通項目) |
| 2. 兄と弟 | 974 | |
| 3. 弟と妹 | 836 | |
| 4. 兄と姉 | 752 | |
| 5. 兄と妹 | 706 | |
| 6. 姉と弟 | 673 | |

同性のきょうだいに、期待される内容が共通であることが多く、ついで出生順位が下のもの同士、上のもの同士に共通性が多く認められた。

Ⅲ. 幼稚園教諭の見た好ましくない子ども

家庭における子どもとは別に、幼稚園という集団の場で好ましくないと言われる子どもはどんな子どもなのか。これを幼稚園教諭に尋ねてみた。発達期待の逆の例といえる。

表7のように18項目をあげ、この中より好ま

しくない子どもを8乃至10例選ぶように求めた。表の「好ましくない」という欄は、その特徴をもつ子どもが、どの程度、幼稚園教諭より好まれていないかを示したものである。

被験者は64名、東京都某区の私立幼稚園の教諭で大半が保育歴の浅い若い女性である。男性は含まれていない。「自分勝手な振舞いの多い子ども」が64名中59名(92.2%)によって好ましくないと思われる。

8項目程度を選んだのち、さらにとくに好ましくない例をその中から2つ選択するように求めた。表7の右端がそれである。「弱い子どもをいじめる」子どもをとくに好ましくないと思っているものが18.8%いたことを示している。扱いかにくい子どもが好まれていないようである。

以上の質問紙調査とは別に、母親に個別的に面接して、まずその母親の子どもに対する発達期待を尋ねた。そしてなぜそのような子どもに育つことを望むのかと掘り下げて質問した。なぜという問いに明快に論理的に回答した母親はきわめて少なく曖昧な説明しか得られなかった。世間一般がそうだから自分もそうしたいという、大きな流れに同調しようという気持が育児の問題についても認められた。

表1

	父親の期待 N=55		母親の期待 N=104	
	対男児	対女児	対男児	対女児
1. 慎重によく考える	21.8%	32.3%	22.1%	36.5%
2. 責任感が強い	74.5	50.9	71.2	50.0
3. 粘り強い	29.1	20.0	46.2	23.1
4. 思いやりが深い	78.1	92.7	74.0	90.4
5. 指示を素直に守る	9.1	29.1	8.7	31.7
6. しっかりと自己主張をする	61.8	47.3	70.2	63.5
7. 知的関心が強い	32.3	34.5	23.1	17.3
8. 積極的でたくましい	78.1	30.9	66.3	18.3
9. 気持がおだやか	9.1	56.4	17.3	67.3

表2

兄(上の男の子)に対する期待		弟(下の男の子)に対する期待	
1. 責任感が強い	54.9%	1. 明るい	44.8%
2. 意志が強い	48.7	2. 活発で元気	42.9
3. 自主性がある	40.8	3. 自主性がある	34.8
3. しっかりと頼もしい	40.8	4. ユーモアがある	33.4
5. 積極的, 指導的	36.7	5. 正しく自己主張をする	32.6
6. 明るい	34.5	6. 意志が強い	28.8
7. 正しく自己主張をする	32.6	7. 責任感が強い	28.0
8. 気持がやさしい	30.2	7. 友だちに人気がある	28.0
9. 寛容である	29.9	9. 気持がやさしい	25.8
10. 相手の気持を考える	26.1	10. さっぱりとしている	24.2
11. 誠実でうそをつかない	22.3	11. 誰とでも親しくなれる	22.0
12. 慎重に考える	20.9	12. 我慢強い	21.7

表3

姉(上の女の子)に対する期待		妹(下の女の子)に対する期待	
1. 気持がやさしい	77.7%	1. 気持がやさしい	67.4%
2. 相手の気持を考える	55.7	2. 明るい	61.4
3. 明るい	53.8	3. 相手の気持を考える	49.7
4. 家の手伝いをする	32.6	4. 誰とでも親しくなれる	25.0
5. 困っている人に親切	28.8	5. 友だちに人気がある	24.7
6. 自主性がある	21.7	6. 困っている人に親切	22.8
7. 正しく自己主張をする	21.5	7. 年長者からかわいがられる	22.6
7. 誠実でうそをつかない	21.5	8. 活発で元気	22.0
9. 誰とでも親しくなれる	20.9	9. 誠実でうそをつかない	20.9
10. 寛容である	20.4	10. 自主性がある	19.8
11. 身のまわりを整理する	18.2	11. 家の手伝いをする	19.6
12. 親の指示を素直に聞く	15.8	12. 正しく自己主張をする	18.2

表4

兄と弟に共通する期待		姉と妹に共通する期待	
1. 明るい	25.7%	1. 気持がやさしい	58.1%
2. 意志が強い	22.9	2. 明るい	40.6
3. 自主性がある	20.2	3. 相手の気持を考える	33.6
4. 気持がやさしい	18.2	4. 家の手伝いをする	14.8
5. 責任感が強い	17.5	5. 誠実でうそをつかない	14.3

表5

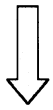
兄と姉に共通する期待		弟と妹に共通する期待	
1. 気持がやさしい	26.9%	1. 明るい	34.3%
2. 明るい	24.7	2. 気持がやさしい	21.5
3. 相手の気持を考える	16.4	3. 相手の気持を考える	14.1
4. 自主性がある	13.5	4. 自主性がある	12.6
5. 誠実でうそをつかない	11.4	5. 友だちに人気がある	11.8

表6

兄と妹に共通する期待		姉と弟に共通する期待	
1. 明るい	26.2%	1. 明るい	32.5%
2. 気持がやさしい	25.8	2. 気持がやさしい	21.1
3. 相手の気持を考える	16.8	3. 相手の気持を考える	14.3
4. 自主性がある	12.3	4. 自主性がある	11.9
5. 誠実でうそをつかない	10.5	5. 誠実でうそをつかない	11.2

表7. 幼稚園教諭の見た好ましくない子ども

	好ましくない	とくに好ましくない
1. 自分勝手な振舞いが多い	92.2%	28.1%
2. 弱い子どもをいじめる	90.6	18.8
3. 告げ口をする	75.0	17.2
4. すぐに泣く	68.8	6.2
5. 怒って乱暴をする	64.1	23.8
6. 友達と一緒に遊べない	60.9	12.5
7. 無口で表情が乏しい	53.1	21.9
8. 先生にベタベタと甘える	39.1	0
8. トイレのしつけができてない	39.1	4.7
10. 苦情や文句の多い母親の子	35.9	4.7
11. 言葉づかいが下品	32.8	1.6
12. けんかをよくする	29.7	0
13. 先生に親しみを示さない	28.1	3.1
14. 服装が汚ない	25.0	0
15. おしゃべり	17.2	1.6
16. うるさく質問する	15.6	3.1
17. 見た感じがかわいくない	6.3	0
18. 運動がへた	3.1	0



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



昭和 56 年度からの継続研究である。母親は子どもに対して、このような姿に育てて欲しいという希望を抱く。この希望は明確に意識されることも多いが十分に自覚されていないこともある。この希望のことを発達期待といい、日常のしつけはこれに沿ってなされる。発達期待をもち得るのは、人間の子どもに可塑性、つまり生後の環境によってつくられる可能性が大であることを前提としている。また育児に関心があるからこそ期待するのだともいえる。

発達期待の内容には病気をしたり怪我をしないで健康に育てて欲しいというような普遍的な面もあるが、心の発達については母親相互間になかなりの差異があるものである。積極的に、仲間と争ってでも優位に立ちたがる子どもになることを期待する親もあれば、温和で誰からも好意をもたれる子どもになって欲しいと望んでいる親もある。

さらにその子どもが男の子であるか女の子であるか、複数の子どもの場合、出生順位が上であるか下であるかによって発達期待の内容は相違するであろうと考えられる。このことは、たとえば「男の子のくせにそんなことをしてはいけない」とか「あなたは妹なのだから妹らしくしなさい」という日常のしつけ場面においてしばしば観察されるところである。きょうだいとその出生順位によって扱われ方が違うということは、わが国のしつけの特徴としてしばしば指摘されているところである。男の子に対するしつけと女の子に対するしつけは戦前においては大きな違いがあった。この点については現在はかなり接近していると考えられるが、実情はどうであろうか。また上の子と下の子はどの程度違う期待がもたれているのか。これらの点を明らかにするのが本論の目的である。